

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170200885		
法人名	有限会社 エイチ・ティ・エス		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	北海道札幌市北区北33条西6丁目2-40 (電話) 011-738-9406		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年11月4日	評価確定日	平成20年11月8日

## 【情報提供票より】(平成20年9月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年4月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 10.7人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	3階建ての	1~3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~40,000 円	その他の経費(月額)	13,000~17,500 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無		有りの場合償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,300 円	

### (4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	11 名	男性	2 名	女性	9 名	
要介護1	3 名	要介護2	3 名			
要介護3	1 名	要介護4	4 名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	84.4 歳	最低	67 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	能登内科小児科医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ケアサービスの質の向上並びに職員の研修の為に外部の講師を招聘して、認知症の理解や事故防止(リスクマネジメント)などの講習会を二ヶ月に一度の割合で継続的な取り組みが実践されています。また、管理者・職員は、本人の残存機能の維持・向上のための支援や張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人ひとりの力や生活歴を活かした支援に共通の認識を共有し取り組んでいる様子が伺えます。この一年間は特に外出の機会を多く増やすように取り組み、駒岡保養センターへの一泊旅行や円山動物園見学、ぶどう狩り、花見や前庭でのバーベキュー等が行われ、気分転換や外出への支援が実践されています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、地域とのさらなる交流促進が改善点として挙げられていましたが、盆踊りや夏祭りなどの町内会行事への参加や介護予防センターでの食事会参加、地域の人達と協力して認知症に対する理解と協力を得るための協働など地元の人達との交流が取り組まれています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、新たな気づきや改善の機会として利用されケアサービスの質の向上に取り組まれています。外部評価の結果については、運営推進会議に於いて報告され意見交換された内容が運営に反映されるように取り組まれています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、本年度 評価日現在3回実施されています。内容は 駒岡保養センター泊旅行について 自己評価の取り組みについて 利用状況について ホーム主催の行事予定について 要望や助言について意見交換
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者一人ひとりの健康状態や金銭管理については、都度個々の家族に合わせた報告が行われていたり、毎月「ハーモニー新聞」を発行して、日常生活の様子やホーム行事参加の様子など情報提供されて、意見や要望などが言いやすい取り組みが行われています。今後は、個別に家族とのコミュニケーションの場を作ることが検討されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣への散歩や地域での買物など日常生活を通じた連携への取り組みや盆踊り、夏祭りなどの町内会行事への参加や介護予防センターでの食事会参加、地域の人達と協力して認知症に対する理解と協力を得るための協働など地元の人達との交流と連携に取り組まれています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく生活するために、家庭的な環境作りを心がけ地域の人達と馴染みの関係が作れるような事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りやミーティングを通じて理念を共有し、その実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣への散歩や地域での買物など日常生活を通じた連携への取り組みや盆踊り、夏祭りなどの町内会行事への参加や介護予防センターでの食事会参加、地域の人達と協力して認知症に対する理解と協力を得るための協働など地元の人達との交流と連携に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、新たな気づきや改善の機会として利用されケアサービスの質の向上に取り組まれている。また、外部評価の結果については運営推進会議に於いて報告され意見交換された内容が運営に反映されるように取り組まれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、本年度 評価日現在3回開催されている。メンバーは利用者、家族、町内会役員、包括支援センター、往診の医師、管理者・職員で構成され具体的な改善に向けて取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日常の業務を通じて区担当者との連携に日々取り組んでいる。また、区の管理者連絡会主催の事例発表会や職員研修会など区担当者の協力・助言を得た取り組みが行われている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの健康状態や金銭管理については、都度個々の家族に合わせた報告が行われていたり、毎月「ハーモニー新聞」を発行して、日常の生活の様子やホーム行事参加の様子など情報提供されています。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時には、日常生活の様子や健康状態など話し合わせ気軽に意見や要望・不安な点など相談ができる取り組みが実践されている。また、自己評価及び外部評価の結果については、運営推進会議で報告され家族と意見交換できる場を設けています。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、職員の離職や異動などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。また、共用空間には、全ての職員の写真を掲示している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ケアサービスの質の向上並びに職員の研修の為に外部の講師を招聘して、認知症の理解や事故防止（リスクマネジメント）などの講習会を二ヶ月に一度の割合で継続的な取り組みが実践されています。また、協力医療機関の医師による研修会を開催するなどケアサービスの質の向上に努めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>区の管理者連絡会主催の事例発表会や職員研修会を開催して、地域のネットワークを構築してサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して、納得した上でサービスが受けられるように入居前には、利用者・家族の見学などで不安を解消する取り組みや、場の雰囲気に馴染めるよう相談しながら工夫している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者と一緒にホーム主催の行事や地域の夏祭りに参加したり、食事の準備や趣味への支援を行いながら、本人から学んだり支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握して、近隣への散歩やコンビニでの買い物、温泉入浴や花見、動物園見学など積極的に外出の機会を多く作ったり、雑巾縫いや歌唱、読書などの趣味への支援など取り組まれている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護支援専門員の適切な監理のもとに、センター方式をもとに作成されており、利用者・家族の希望や医師からの助言・情報や職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画となっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画書に記載している個別の期間を目安に2ヶ月ごとに見直しが行われている。また、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、散歩や買い物、通院や往診など柔軟に支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師の職員が在籍し、主治医との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、利用者、家族の希望や要望や状態変化などについても適切な医療が受けられるように支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、医師と連携して利用者・家族と繰り返し相談しながら慎重に対応するよう職員間で方針が共有されている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した声かけや対応が行われています。また、記録等の個人情報の扱いについては、個人情報保護法に対応した配慮がされた取り組みが行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、散歩やコンビニでの買い物、食事の準備や後片付け、雑巾縫いや習字など本人の希望に応じて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や後片付けをしている。また、食事中は職員と利用者が和やかで家庭的雰囲気を持っていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週2回を目安に入浴が楽しめるように支援されている。また、拒否の強い利用者にも対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの過去の大事な出来事や生活歴が把握され、習字や雑巾縫い、歌唱、食事の準備や後片付けなどの趣味への支援や散歩や買い物、気分転換のための温泉一泊旅行や動物園見学など外出の機会も多くつくられている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本年は、特にホームを挙げて外出レクに取り組み日常的な散歩や買い物、駒岡保養センターへの宿泊や動物園見学など積極的に外出ができるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会を実施し、職員間で共通の認識が持たれている。また、日中 玄関は、鍵をかけずにセンサーの設置などで安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火管理者が配置され、消防署の協力を得て火災避難訓練が年2回実施されている。また、救急救命の訓練については今後予定されている。</p>		<p>今後は、日ごろより地域の人々の協力が得られるように近隣の住民も参加した火災避難訓練の実施を期待します。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスやカロリーについてもおおよそ把握され、医師のアドバイスも受けて支援されている。また、水分・食事の摂取量については必要に応じてチェック表をつけて対応している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、廊下には来訪者にホームの取り組みが分かりやすいように行事参加の様子や地域のお祭りの写真、職員手作りの作品などが飾られている。食堂やリビングからは外の景色が眺められ四季の様子が感じられる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、仏壇や冷蔵庫、テレビ、使い慣れた家具やソファなどが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。